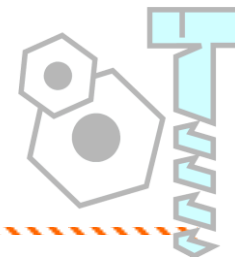




# 業種別部会長シンポジウム



## 機械金属部会

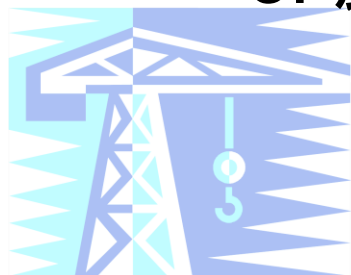
### 「2013年上期の回顧と下期の展望」

#### 業種・分野別分類

1. 鉄鋼(鋼板)
  2. 電力及び社会インフラ
  3. プラント機器
  4. 建設機械
  5. 農業機械
  6. 各種切削工具他
  7. 機械部品・計測機器
  8. 潤滑油・金属加工油
- 機械金属部会 全体

2013年 8月20日

伯国三菱重工業 相原



# 1.鉄鋼(鋼板)

## 2013年上期の回顧

### 概況

国内粗鋼生産量:

上期:1,697万ton(前年比 ▲2.2%)

鋼材見掛消費量:

上期: 1,300万ton (前年比 ▲ 0.4%)

ブラジル経済の回復基調が弱く、生産量は減少、見掛消費量は横ばい。

輸出:

上期:444万ton(前年比▲14.4%)

半製品281万ton( ▲26%)、鋼板類96万Ton(▲17%) 条鋼類60万ton( ▲24%)

輸入:

上期:168万ton(▲14.6%)

主要鉄鋼製品の関税引上げの影響。

但し、本統計外の間接的鉄鋼製品の輸入は250万ton(+14%)

## 2013年下期の展望

### 概況

国内粗鋼生産2013年の予測

3,450万ton : (前年比 横ばい)

鋼材見掛消費量2013年の予測

2,610万ton : (前年比 横ばい)

輸出:

2013年の予測 890万ton(▲8.8%)

主力のスラブ輸出の減少を懸念。

輸入:

2013年の予測 310万ton(▲17%)

政府の保護政策とリアル安により減少と予測

国内の建設・建機及びインフラ需要に期待。伯政府の減税処置による自動車産業の好調持続に期待。

## 2.電力 及び 社会インフラ

### 2013年上期の回顧

#### 概況

経済の牽引役であるPetrobrasの大型投資案件が遅れており、全体的に低調。依然、上流部門(プレサル)に偏っており、造船等への投資には積極的だが、プラント機器等への投資は不十分。

水不足による電力危機にも関わらずガス火力はガス供給問題とPetrobrasの資金不足のために入札は遅れ気味。

インフラ関係大型プロジェクトも入札の遅れが目立つ。高速鉄道も8月16日に入札が予定されているが、日本も含め各国ともに応札には慎重。

汚染土壌の洗浄、環境設備の導入計画も具体的な進展なし。

### 2013年下期の展望

#### 概況

6月のデモ騒動の影響もあり、短期間での経済のV字回復は見込めない。Petrobrasの業績悪化による大型投資案件の遅れも懸念されるが、国内経済の牽引役としての期待は大きい。インフラなどの建設プロジェクトの速やかな推進と政府の経済政策による中間層の個人消費の拡大が設備投資の鍵となる。

発電・環境ともにFSは完了しているが、投資の最終決定ができない経済状況。

都市交通、道路、空港拡張等の社会インフラ関係は、サンパウロ地下鉄や空港運営事業権(リオ、ペロリゾンチ)で一部進展する見込み。

# 3.プラント機器(紙パルプ・石油化学・製鉄等)

## 2013年上期の回顧

### 概況

#### 紙パルプ業界

国際競争力のある業界であるが、リアル安によるドル建債務の評価損を数百億円単位で計上しているが、昨年同期と比べ、業界大手の第2四半期決算は好転しており、設備投資に遅れはあるが、継続中。

#### 石油化学業界

割高な天然ガス価格に嫌気をさして、各社とも投資計画延期、中止の動きが顕著。

#### 鉄鋼・非鉄業界

業界の操業度低下により製鉄所案件は軒並み中止または延期。

## 2013年下期の展望

### 概況

#### 紙パルプ業界

製紙各社は来年以降の設備投資に向けて計画作業開始しており、来年に期待。

#### 石油化学業界

PB予算が厳しいことから石油開発の上流側を除き、新規投資は延期の予想。PBが北東部2か所に計画中の新設精油所のプロジェクトが動き出すことに期待。

#### 鉄鋼・非鉄業界

世界的には供給能力過剰であり、2013年での好転は期待できない。

# 4.建設機械

## 2013年上期の回顧

### 概況

#### 総需要台数

1Q: 2,479台(2012-1Q比 +12.8%)

2Q:1,049台(4月単月)

全体的に緩やかな需要の回復が見られ2012年度の落込みが大きすぎたこと、農業開発省(MDA)向 tender の影響もあり、+12.8%となっている。

#### 小形建機

小形バックホーは、輸入統計全体では、前年比▲25%と低調。

## 2013年下期の展望

### 概況

#### 総需要台数

2012年実績: 10,383台

2013年予測: 13,200台(+27.1%)

インフラ関連による需要に加えて、農業開発省向 tender により、総需要は伸長すると予測し、2012年比で+27.1%の増加となる見込み。

#### 小形建機

W杯等に向けての建設・整備需要の増大により、年間で20%の伸びを期待。

## 5. 農業機械(小型ディーゼルエンジン含む)

### 2013年上期の回顧

#### 概況

#### エンジンビジネス

2013年上期の販売(発電機セット含む)は、全般的に好調で、前年同期比で台数、金額ベースともに、+11%。

#### トラクタービジネス

全般的な農産物の豊作と2008年から開始された小規模農家への低金利融資政策の継続により、2013年上期の販売は前年同期比で+19%。しかしながら、政府の価格上限コントロールにより、1台当りの採算面では厳しい。

### 2013年下期の展望

#### 概況

#### エンジンビジネス

下期の小型エンジン販売は、上期並みを想定。20馬力以下のブラジル製単気筒エンジンの販売は、地方への電化による市場縮小に加えて、安価な中国製エンジンの流入により、今後も低迷が続くと予想。

#### トラクタービジネス

低金利融資政策が継続されることで、小形トラクターの販売は好調を維持すると期待。(年間で前年比+15~20%)

# 6.各種切削工具他

## 2013年上期の回顧

### 概況

#### 切削工具

自動車業界の好調に支えられ、前年同期比+14% 但し予想よりは下回った。耐摩耗工具は受注半減。鉋山工具は、前年並みの受注。建設は好調、鉋山は価格競争が厳しい。

#### ねじ切り工具

輸出が日本向け製品の供給停止もあり、リアル安にも関わらず、▲4%。国内向けも前年同期比▲16%。

#### プラスチック成型品等

トラック部品の回復により前年同期比+30% 一般消費者向セラミックは+10%

## 2013年下期の展望

### 概況

#### 切削工具

季節的な要因も含め、上期実績に比べて10%の増加と予想するも、楽観できる状況ではない。耐摩耗工具は建設用丸棒鋼の需要は今後も期待。

#### ねじ切り工具

受注が好転してきており、納期確保を確実にして、受注確保を目指す。

#### プラスチック成型品等

トラック部品の需要が継続すると予想 新規製品も含め+20%の見込み。一般消費者向セラミックも通年で+10%の見込み。

# 7.機械部品・測定機器

## 2013年上期の回顧

### 概況

#### チェーン

製糖業界向スポット受注もあり、前年同期比332%の増加。この特需除けばほぼ横ばい。

#### ホイスト&クレーン、チェーンブロック

前年比▲20~25% 中国製品との競争が大きな試練。

### 軸受

自動車向は堅調だったが、2輪車向は依然低調。

農機は堅調、鉱山向はVale等の投資低調なため、依然低迷。

アフターマーケットは安値の中国製品の輸入に歯止めかからず。

### 測定機器

SENAIなど教育機関向販売が堅調に推移し、目標未達なるも前年同期比+4%

## 2013年下期の展望

### 概況

#### チェーン

食品包装、製糖、森林等特定業界の補修需要の取り込みと新規OEM攻略による販売増加を狙う。

#### ホイスト&クレーン、チェーンブロック

価格より品質重視の顧客をターゲットに受注拡大を目指す。

### 軸受

自動車向は堅調に推移するが2輪車向は回復期待薄。

農機の好調に期待。産機は回復に期待。アフターマーケットは代理店の在庫も高止まり。低価格の中国品の浸食が継続。

### 測定機器

自動車業界の投資を期待しつつ、医療機器、製薬など顧客層の多様化を目指す



# 8.潤滑油・金属加工油

## 2013年上期の回顧

### 概況

#### 潤滑油

市場全体としては前年比+5%と、全分野でプラス伸長が見られる。とりわけ自動車分野が+6%と好調。自動車用燃料も好調で、ガソリン+エタノールの消費量は前年比+7%

#### 金属加工油

前年比+14%  
自動車販売が堅調に推移したため、主要客先である自動車部品製造業での生産が増加した。

## 2013年下期の展望

### 概況

#### 潤滑油

自動車分野の好調さが維持されれば、潤滑油全体需要も押上げられる。ただし、デモ等の影響による景気の失速が工業用潤滑油の停滞を招くことを懸念。

#### 金属加工油

前年比 +10%  
自動車関連企業の生産は好調に推移しているが、依然、2輪車は低調。頻発するデモの影響が懸念されるが、新規獲得に努め、目標達成を目指す。

# 機械金属部会 全体

## 2013年上期の回顧

多少景気は回復基調にあるが、依然ヨーロッパ初め世界経済は低迷しており、特に中国経済の減速によりブラジル経済もGDP成長率2%台と予想。最近のデモなどの影響もあり、個人消費にも陰りがあり、設備投資意欲が依然落ち込んでいる。ブラジル経済を牽引すべきペトロbrasも業績悪化により、予算削減が行われ、プロジェクトの遅れが目立った。また社会インフラ投資についても政府の発表は派手に行われたものの、実際の投資が動き出したケースは少なく、需要喚起に結びつかなかった。ただ、自動車関連業界だけが、予想よりは下回ったが、前年比増加となった。

## 2013年下期の展望

ブラジル経済がV字回復する見込みは殆ど無く、低成長が継続するものと推測され、概ね各社共に2012年並み、或いは2011年レベルへの回復を予測している。とくに製造業のコスト競争力は、益々低下しており、安価な中国品との熾烈な競争に如何に勝ち抜いていくかに、各社必死に努力している。ペトロbrasの業績悪化により同社の設備投資が活発になる可能性は依然低く、この関係の受注も低迷する可能性がある。一方、最近のデモにより、社会インフラ投資計画の実現が加速される期待がある。造船関係では、日本からの技術協力と資本投資がいよいよ本格化している。